

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/26】

男子準々決勝

神奈川県選抜 10

4	—	0
3	—	2
2	—	1
1	—	3

6 福岡県選抜

PSO

審判： 荻野 浩明
太田 一誠

神奈川県選抜	15	SH数	21	福岡県選抜
	14	速攻数	7	
	12	ST・SB	14	
	10	SH・P誘発アシスト	6	
	50%	GK阻止率	17%	
5	EX反則数	5		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

長いブランクを経て福岡と第2回大会での優勝以来の出場となった神奈川県。まさに桃太郎カップにおける「お久しぶりね」対決。

1P

開始早々から神奈川の泳ぎがさく裂し、次々に相手の裏をついての退水、ペナルティ得点で4点を奪取。特に、神奈川県カウンター攻撃の起点となった久保田、仁木の動きに福岡は完全に翻弄されてしまった。また、そうした泳ぎだけではなく、神奈川の斎藤や森谷は相手ボールに絡んでからのスチールにも長け、神奈川県攻撃の起点形成の礎的存在性が光っていた。神奈川の圧力に圧倒された福岡は、攻撃の糸口すらつかめないうまま神奈川県4-0福岡というスタートとなった。

2P

このピリオドも神奈川のカウンター攻撃が続き、鈴木がペナルティを誘発して自身がシュートを決めて神奈川県5-0福岡と、やや一方的な様相を呈してきた。しかしこの後、神奈川の攻撃もややペースダウンし、攻撃にもミスが出始めたことで隙が生まれ、福岡の小櫻や原田が得点してからは落ち着きを取り戻しつつあった。やや流れが悪くなった神奈川県だったが、福岡の退水シュートを止めた神奈川県GK吉村の速攻アシストパスを受けた仁木が決めて、福岡に傾きかけた流れを止めて前半を終了(神奈川県7-2福岡)。

3P

ピリオド開始直後に神奈川県・仁木がペナルティを誘発し、そこを木村が決めて6点差。その後、両チームともに攻撃時のミスが双方で起きてなかなかシュートにまで持ち込めない展開が続いた。中盤に神奈川の攻撃時の反則から井堀が退水を誘発したところでベンチがタイムアウト。そこを原田が決めて差を詰めたが、前のピリオド同様に神奈川県GK吉村の速攻アシストパスを受けた森谷が決めて再び6点差として、最終ピリオドを迎える形となった。

4P

点差が離れたことで神奈川県は控え選手中心となったことから、最後は福岡が圧倒して3連続得点。本来の福岡が得意とする速攻をここで繰り出し、その動きから退水を奪って加点。敗れた福岡だが、最後に本来の姿を示せたことはこれからの飛躍につながるものがあった。

結果的には第1ピリオドの泳ぎからエクスクルージョン・プレーを展開した神奈川県が終始余裕の戦いを見せて準決勝に進出。第2回大会優勝以来の出場で、2回目の優勝を狙えるお膳立てができた形となった。

【プレー分析から】

シュート数は福岡が上回ったが、有効的なシュートは神奈川県には遠く及ばず、逆に神奈川県はその決定率の高さが示すように、確実に得点するシュートへの意識の高さが際立っていた。また、対戦相手にも影響されることだが、神奈川県ほどの速攻を繰り出すチームは他にはなく、飛び出しのタイミングなど平日頃の練習の賜物であろう。またジュニア世代での上位進出のカギを握るのがGK。セーブだけでなく、前に出てボールをスチールする対応力、さらには速攻チームには欠かせないカウンター攻撃での前線へのアシストパス。その意味では、神奈川県GK吉村はそうした諸条件を備えたプレーをここでも見せていた。